

単元名 言葉をよりすぐって俳句を作ろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫について気付き、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うことができる。
 (2) 俳句の構成や書き表し方などに着目して俳句を整え、自分の句のよいところを見付けることができる。
 (3) 構成や書き表し方に着目して、文言を整え、俳句を作ろうとする。

標準的な展開例

05010111_001

【教材名】 日常を十七音で (P. 60～P. 63)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日常の気付きや発見を思い起こしながら俳句を読み、俳句を作る学習計画を立てる。 ★言葉をよりすぐって俳句を作ろう。 ○教科書(P. 60)の俳句を読み、感想を伝え合う。</p> <p>○教科書(P. 60)で活動の流れを確認する。</p> <p>○俳句を作る材料を集め、短い文で書き、発表し合う。</p> <p>2 俳句のきまりを確認し、表現を工夫して俳句を作る。 ○俳句を作る材料を集め、短い文で書く。</p> <p>○五・七・五の十七音で俳句を作る。</p> <p>○表現を工夫する。</p> <p>3 作った句を読み合い、表現の工夫について感想を伝え合う。 ○グループで読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・自分の経験と重ねさせる。 ・表現の工夫で感動が生まれることに気付かせたい。 ・生活の中で気付いたことや驚いたことを俳句にして伝えることを知らせる。 ・教科書(P. 61)を参考に、そのときの気持ちや様子を詳しく知多の友(P. 5)に書かせる。 ・音数の数え方の基本や季語を押さえる。 ・定型(字余り、字足らずを避ける)が望ましいとされることを伝える。 ・教科書(P. 61～63)を読み、俳句のきまりや表現の工夫の仕方を押さえる。 ・知多の友(P. 6)を利用し、より感動が伝わるように工夫させる。 【評】表現を工夫する活動を通して、構成や書き表し方などに着目して俳句を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】俳句を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・知多の友(P. 7)を活用する。 ・表現を工夫したところを中心に、よさを伝え合うようにさせる。 ・表現を工夫し、言葉をよりすぐることによって、いっそう読み手に思いが伝わるという、俳句作りの魅力を感じ取らせる。 【評】俳句を読み合う活動を通して、語感や言葉の使い方に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】